

税金と鉄道がつなぐ、私たちの未来

学校法人暁星学園暁星中学校2年 松木 圭

私は、中学校で鉄道研究部に所属しています。部活動では、鉄道模型の製作や写真撮影のために、全国各地の鉄道に乗って旅をします。仲間と一緒に、まだ見ぬ景色や車両との出会いに心を躍らせながら、とても楽しい時間を過ごしています。また、部活動だけでなく、電車を使って通学している私は、これまであまり意識してこなかった「税金」と鉄道は関係があるのかが、ふと疑問に思い考えてみることにしました。

私が利用している鉄道路線には、ほとんどの駅のホームと線路の間にホームドアが設置されています。これらは人身事故や転落事故を防ぎ、安全な運行を守るために欠かせない設備です。調べてみると、ホームドアの設置や駅の改修、災害時の復旧などには鉄道会社で差はあるものの、税金が使われている場合もあるそうです。安全に学校へ通えることは当たり前ではなく、社会全体の支えがあつたこそだと気づいた瞬間でした。

また、鉄道の運賃には消費税が含まれていることをこれまでまったく意識したこと�이ありませんでした。中学生の私でも電車に乗ることで、税金の支払いに関わっていたのです。毎日の通学や部活動での移動という日常の生活の中に、税金を納める一員として、自分も役立っていたのだと感じた瞬間でした。

その他には、鉄道事業そのものが税金によって支えられていることも分かりました。新しい路線の整備や老朽化した設備の更新、自然災害で被害を受けた路線の復旧。これらは運賃だけでは賄えず、国や自治体の税金が投入されています。鉄道は人や物を運ぶだけではなく、地域の経済や人々の暮らしを支える大動脈であり、その安全性と安定性を守るためには、これからも税金が必要であることを学びました。

今回、税金と鉄道の関わりを調べてみて、私は初めて「鉄道に税金が使われていること」や「運賃に税金が含まれていること」を知りました。今まで、改札を通って電車に乗る、そんな当たり前に感じていた日々の行為でしたが、その背後には税金による支えや多くの人々の関わりがあったのです。

毎日の電車利用は、ただ目的地へ運んでくれるだけではありません。私たちは運賃に含まれる消費税を通じて税金を支払い、その税金に守られながら暮らしています。安全なホーム、快適な車両、災害後の早い復旧。それらは決して当たり前ではなく、見えない多くの人の努力と税金の力によって成り立っていたのです。

明日から私は、電車の窓から見える景色や鉄道車両、鉄道に関わる人々を、少し違った思いや視点で眺めてみたいと思います。税金が「取られる・納めるべきもの」という義務的な考え方ではなく、「皆で社会を支え合い、社会を走らせる力」ということを知ることができたのだから。